

会 議 記 録

会議名 予算特別委員会総務分科会

開催日 令和7年3月7日（金） 開会 午後 1時00分

閉会 午後 2時03分

出席者 委 員 分科会長 小 平 啓 佑

	小太刀 孝 之	小久保 かおる	松 本 喜 一
	梅 澤 米 満	天 谷 浩 明	小 堀 良 江
傍 聴 者	川 田 俊 介	雨 宮 茂 樹	森 戸 雅 孝
	浅 野 貴 之	大 浦 兼 政	針 谷 育 造
	古 沢 ちい子	大 谷 好 一	内 海 まさかず
	青 木 一 男	針 谷 正 夫	広 瀬 義 明
	氏 家 晃	福 富 善 明	福 田 裕 司
	中 島 克 訓	大阿久 岩 人	白 石 幹 男
	関 口 孫一郎		

事務局職員	事 務 局 長 森 下 義 浩	議 事 課 長 野 中 繭実子
	課 長 補 佐 佐 藤 優	主 事 斉 藤 千 明

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

総 合 政 策 部 長	癸 生 川	亘
経 営 管 理 部 長	金 井 武	彦
地 域 振 興 部 長	佐 山 祥	一
危 機 管 理 監	狐 塚 光	紀
会 計 管 理 者	瀬 下 佳	子
消 防 長	上 岡 健	司
監査委員事務局長併 選挙管理委員会事務局長	田 嶋 律	子
総 合 政 策 課 長	押 山 好	孝
秘 書 課 長	五 十 畑	肇
広 報 課 長	渡 邊 浩	志
行財政改革推進課長	茅 原 洋	一
デジタル推進課長	宇 津 野 薫	朗
危 機 管 理 課 長	潮 田 美	紀
カーボンニュートラル 推進課長	深 津	勝
総 務 人 事 課 長	奈 良 部 和	紀
総 務 人 事 課 主 幹	飯 塚 昭	浩
契 約 検 査 課 長	高 橋 宏	樹
管 財 課 長	奈 良 部	満
財 政 課 長	熊 倉 宜	和
税 務 課 長	山 岸 良	郎
税 務 課 主 幹	出 井 章	裕
収 税 課 長	金 子 博	文
地 域 政 策 課 長	鈴 木 邦	彦
大平地域づくり推進課長	小 島	清
藤岡地域づくり推進課長	安 塚 欣	也
都賀地域づくり推進課長	島 田 和	行
西方地域づくり推進課長	安 達 博	美
岩舟地域づくり推進課長	黒 川 幸	咲
蔵 の 街 課 長	加 茂 浩	史
ス ポ ー ツ 課 長	佐 藤 正	実
渡 良 瀬 遊 水 地 課 長	海 老 沼 博	行

消 防 総 務 課 長
消 防 総 務 課 主 幹
予 防 課 長
警 防 課 長
通 信 指 令 課 長
消 防 第 1 課 長
消 防 第 2 課 長
選挙管理委員会事務局次長
監 査 委 員 事 務 局 次 長
議 事 課 長

小	川	信	幸
荒	川	浩	明
田	村	秀	彦
中	村		聡
中	山	全	良
荒	井		進
長	江	幸	一
佐	藤	啓	子
奈	良 部	久	子
野	中	繭 実	子

令和 7 年第 2 回栃木市議会定例会
予算特別委員会総務分科会議事日程

令和 7 年 3 月 7 日 総務常任委員会終了後 全員協議会室
日程第 1 議案第 5 号 令和 7 年度栃木市一般会計予算（所管関係部分）

◎開会及び開議の宣告

○分科会長（小平啓佑君） ただいまの出席委員は7名で、定足数に達しております。

ただいまから予算特別委員会総務分科会を開会いたします。

（午後 1時00分）

◎諸報告

○分科会長（小平啓佑君） 当分科会に送付された案件は、各分科会議案送付区分表のとおりであります。

◎議事日程の報告

○分科会長（小平啓佑君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議案第5号の上程、質疑

○分科会長（小平啓佑君） ただいまから議事に入ります。

なお、本予算に対する説明は2月7日に開催された議員全員協議会及び各分科会説明表の送付をもって済んでおりますので、分科会での説明は省略いたします。

また、分科会では質疑のみを行い、討論、表決については、3月21日金曜日に開催される全体会において実施しますので、よろしくお願いいたします。

これより審査に入ります。

日程第1、議案第5号 令和7年度栃木市一般会計予算の所管関係部分を議題といたします。

お諮りいたします。本案につきましては、各部所管ごとに歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

なお、執行部の答弁に際しましては、担当課長のみならず質疑の内容によりましては担当部長等にご答弁いただくこともありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

また、質疑に際しましては一問一答の方法により、予算書のページ数もお知らせ願ひます。

まず、総合政策部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の総合政策部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

それでは、質疑をお願いいたします。

小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 歳入のほうでちょっとお伺いします。

117ページ、ふるさと応援寄附金17億円ということになっておりますが、この17億円の根拠をお示しいただきたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） ふるさと応援寄附金につきましては、こちら個人版のふるさと応援寄附金ということでございます。個人版につきましては、年々今増加傾向にありまして、今年度、令和6年度、見込みになりますけれども、16億円を少し超えてくるかなというような状況でございまして、来年度につきましては17億円ということで設定をさせていただいたところでございます。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございませんか。

小堀委員。

○委員（小堀良江君） 141ページです。外国人住民支援事業交付金ですけれども、年々外国人の方々の居住が増えているように感じます。推移のほうをまず教えていただきたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 外国人の推移ということでございますが、昨年、1年前になりますけれども、外国人登録者、1月末現在5,051名ということでございました。直近の今年の1月ということになりますと5,514名ということで、1年間で大体500名程度増えていると。その前も同じような推移をしているのかなというふうな感じでございます。

○分科会長（小平啓佑君） 小堀委員。

○委員（小堀良江君） 相談業務に関しては、どのような傾向がありますでしょうか。

また、今後の課題等々あればお聞かせいただければと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 相談件数につきましては、令和4年度で3,000件ほどございました。令和5年度、昨年度は2,200件程度ということで推移しているところでございます。当然外国人の方が増えれば相談件数も増えていくのかなというところもございます。その一方で、既に栃木市のほうにお住まいになっている外国人の方、同じ国、国籍の方なんかでありますと、コミュニティみたいなものもございますので、直接国際交流協会のほうにご相談に来る前に、同じ国の方にご相談をしたりというようなこともございますので、件数自体はそんなに急激に増えるということはないのかなというふうには考えております。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 149ページ、小平浪平生家整備事業で、前回質問したときには相当古くて傷みが激しいと聞いたのですけれども、今回の予算は8万4,000円という、こんなものでは、今の建物を何とかもたせるためには、こんなものでは全然問題ではないと思うのですけれども、どのよう

に考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 委員おっしゃるとおり、建物のほうは相当古い建物が多い、ほとんどがそういうことでございます。昨年度につきましても、北蔵と作業小屋の修理をさせていただいたということでございます。そちらの整備事業費ということでございますが、その辺維持管理というところで、もう一つ別に小平浪平生家管理費というのがございまして、そちらのほうで対応させていただくということでございます。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 管理費ということですが、一回これ専門屋に老朽化した建物全体をどのように改修していくか、基本設計等、そういう考えがないのかお聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 当然将来的に維持保存ということを考えますと、専門家の方のご意見等が必要になってくるかなと思っております。来年度、令和7年度におきましては、その方向性、こういった形で保存していくのかというようなところについて懇談会的なものを立ち上げさせていただいて、そちらで議論をしていこうかなというふうに考えているところでございます。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） そういう立ち上げてやるより、専門屋に一回全部見てもらって、どういう方向性で、この建物は何年後までには補修しなくてはならないとか、そういう順番をちゃんと決めていただいて予算組みをしていただきたいと思いますと思うのですが、そういう基本の見る方は、今年度の補正予算でも何でもいいですから、早急に判断していただきたいと思いますと思うのですが、どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 委員のおっしゃるとおりでございますので、検討させていただきたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 143ページのシティプロモーション事業費についてなのですが、これは主要事務事業にものっているのですが、令和6年に歌麿と栃木の関係を栃木市民に知ってもらおうと講演会を開催したのも関わっているのかなと思うのですが、令和7年に落語家の3人をお呼びして、いろんな開催をしているというのも関係していると思うのですが、このシティプロモーション事業には、8人と1団体がしっかりと取り組んでくださるようなことが栃木市のホームページには載っていたのですが、これからの展望はどのようになっているのかお聞きしたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 渡邊広報課長。

○広報課長（渡邊浩志君） シティプロモーション事業ですが、こちらにありますようにふるさと大使、その他関係団体等と連携をいたしまして、郷土愛の醸成や本市の認知度の向上に努めていきたいという方針でございます。現在の計画が令和6年度から令和8年度までということで進めておりますので、そこから先はまたそのときに見直すというような形になりますが、現状は今のままで令和8年度までやらせていただきたいと考えております。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 153ページ、R P A ・ A I 整備事業費であります。この文字認識サービスと音声サービスというふうに書いてあるのですけれども、当然小堀委員が言った外国人の方も、いろんな国があるのですね。そういう対応というのはできるのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 宇津野デジタル推進課長。

○デジタル推進課長（宇津野薫朗君） A I の外国人対応ですけれども、まず令和7年度の予算におきましては、そこまでは想定しておりません。あくまでもお預かりした申請書の文字情報を電子データ化するですとか、これが文字の読み取りですね。そういったものに活用するという予定でございます。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 79ページの地域少子化対策重点推進交付金についてなののですけれども、これは国の国庫補助金なののですけれども、新しい出会いの場のA I のデジタル創出支援事業でよろしいのでしょうか。ちょっと確認の質問なののですけれども。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） この地域少子化対策重点推進交付金というのは、いわゆる今年度についても栃木市において実施いたしました婚活イベントの財源ということで、国のほうからいただける予定ということでございます。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 前、議員研究会で説明をお受けしたのですけれども、素晴らしい事業だと思いますので、国庫補助金だけではなく、これからしっかりと補助をつけて栃木市で推進していただきたいと思いますののですけれども、そういったこれからの進展というお考えはございますでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 押山総合政策課長。

○総合政策課長（押山好孝君） 今年度初めてイベントのほうをやらせていただいたというところでございます。来年度につきましても、国庫補助を活用させていただいて、婚活イベントですね、今

年、メタバースを入れてやらせていただきました。来年度についても、そのメタバースとバスツアーということで、そのほかに男女で一緒に体験していただくイベントみたいなものを4回ほど設定していきたいというような形で、今後もそういった形で進めていきたいなというふうに思っております。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ないようですので、総合政策部所管の質疑を終了いたします。

議事の終了した執行部の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

ここで執行部の入替えを行います。少しお待ちください。

〔執行部退席〕

○分科会長（小平啓佑君） 次に、経営管理部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の経営管理部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 147ページになります。庁舎管理費でございますけれども、説明表のほうを見ると、本庁舎の電気、水道、都市ガスの光熱水費が約1億円というふうに示されておりますが、令和6年度に比べて物価上昇分ってどれぐらい加味しているのかお伺いいたします。

○分科会長（小平啓佑君） 奈良部管財課長。

○管財課長（奈良部 満君） お答えを申し上げます。

こちら来年度の電気料の見込みにつきましては、今年度の支出額を基に計算をしております。

以上でございます。

○分科会長（小平啓佑君） 小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） ということは、令和6年度分から令和7年度分については上昇分は加味している。令和6年度分そのまま、イコールという考えでよろしいのですか。

○分科会長（小平啓佑君） 奈良部管財課長。

○管財課長（奈良部 満君） 中身は今年度の実績を踏まえて、来年度の予算は見積もっております。

以上でございます。

○分科会長（小平啓佑君） 小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 続けさせていただきます。同じく147ページ、本庁舎エレベーター改修事業費7,100万円ほど計上されておりますが、改修内容をお聞かせください。

○分科会長（小平啓佑君） 奈良部管財課長。

○管財課長（奈良部 満君） お答えを申し上げます。

こちらエレベーターは、職員が使う3、4号機のリニューアルでございまして、この本庁舎のエレベーターは、稼動から既に35年を経過しております。巻上機ですとか制御基板などの主要部品の製造が終了しておりますことから、万が一故障した場合に長期間使えなくなる、そういった事態を避けるために制御機器等のリニューアルを行うものでございます。

また、初期微動感知地震時管制運転装置ですとか、戸開走行保護装置の追加、また耐震構造強化など安全性能の向上を図りますほか、バリアフリー面でも機能を高めたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 169ページになります。体育館管理費、これは大平になりますけれども、ここの委託料関係の記載がされておりますけれども、現在これ、去年の4月だったですか、天井が落下して使用できない状況になっていて、修繕の見積り等調査は去年の秋頃入っているのですけれども、修繕の費用の記載がございませんが、この辺は補正で出すのか、それとも工事等はまだ決まっていないのかお聞かせください。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○副分科会長（小太刀孝之君） 失礼しました。

○分科会長（小平啓佑君） では、今の質問はなかったということで。

ほかの質問をお願いいたします。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） ちょっと項目が多いのですが、一括してちょっと聞きたいのです。職員人件費について質問します。

簡単に言うと、この数字と人数で割っていくと、数字的に、例えば163ページのやつは850万円だと。下の数字はいずれにしても。次、846万円、何となくこんなものなのかなと思うと、177ページは701万円、219ページに行くと、今度は認定こども園に行くと629万5,000円ぐらいになるのです。

1人で割っていいのか悪いかわかりません。これというのは私が思うのに、階級数が、1とか2とか3とかって階級があるけれども、低い人多ければちょっと低めの数字なのかなというのは理解するのですが、要は平準化というふうにすると、例えば管理職がちゃんと割当ての人数、割当ての人数と言うとおかしいですけれども、そういう管理の面では何か目が届かなくなるのではないのかなと逆に思ったわけです。だから、何が言いたいのかというのは、800万円から850万円ぐらいであれば、管理職もちゃんといてというのですけれども、この629万5,000円となると、そういう職員のほうが多くて、目が届かないのではないのかというふうに思うのですが、どんなふうな数字で考えていけばいいのですか。

○分科会長（小平啓佑君） 飯塚総務人事課主幹。

○総務人事課主幹（飯塚昭浩君） お答え申し上げます。

基本的には、委員おっしゃいますとおり、保育園につきましては若い職員が多いので、多分人数で割ってしまうと安くなるというのは当然でございます。やはり委員のおっしゃいますとおり、管理職がいてとか、係長がいてという、そういう体系であればもうちょっと上がってくるのですけれども、あくまでも保育園についての、ちょっと比較ができないので、それは保育課とかが管理しているような状況がございまして、逆に言えば園長をもうちょっと上のほうの位にするとか、制度的に変えなくてはいけないので、そこら辺は今後の課題かなと思ってございます。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） ちょっと提議を投げかけたいのですが、やはりある程度指導とかをしていくのにも、ある程度上の人がちゃんとした目で見てやっていくべきだというふうに思っているほうなので、そういうのを考えると、数的にはこうなってしまうのでしょうかけれども、職員の適正配置の標準化、平準化というか、そういうものはやっぱり今後頭に入れていってもらったほうが何かいいのかなという大体の希望なのですけれども、それについての意見を聞きたかったわけなのです。

○分科会長（小平啓佑君） 飯塚総務人事課主幹。

○総務人事課主幹（飯塚昭浩君） 委員のおっしゃいますとおり、そういうのが、確かにそういう形が理想だと思いますので、今後検討していきたいなと思ってございます。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ないようですので、経営管理部所管の質疑を終了いたします。

議事の終了した執行部の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

執行部の入替えを行いますので、少しお待ちください。

〔執行部退席〕

○分科会長（小平啓佑君） 次に、地域振興部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の地域振興部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

質疑をお願いいたします。

小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 先ほど所管が間違えてしまいまして大変失礼しました。169ページになります。体育館管理費（大平）でございますけれども、ここを見ると委託料関係がのっておりますが、今、大平体育館、昨年の4月ぐらいに天井が落下して使えない状況が続いていまして、その調査をするのに秋ぐらいに補正組まれていると思うのですけれども、当初予算にのせていないということは、まだ修繕の見込みが立っていないということなののでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 小島大平地域づくり推進課長。

○大平地域づくり推進課長（小島 清君） お答え申し上げます。

大平体育館につきましては、委員おっしゃったとおり、補正予算で調査委託ということでやらせていただきました。調査結果のほうはまだ2月末に出てきたというところで、当初予算には間に合わなかったのですが、その調査結果につきましては、今現在、専門家であります建築住宅課のほうの技師のほうに見てもらっていきまして、その意見を受けて、内部の考えを決めた上で、議員の皆様にご相談したいと考えております。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） 小太刀副分科会長。

○副分科会長（小太刀孝之君） 了解しました。地域の方から、ここはいつになったら使えるのだという、非常にご意見出ていますので、できるだけ早い進め方でよろしくお願いします。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 161ページ、地域施設再編モデル総合支所複合化整備事業（藤岡）なのですが、基本設計ということで委託料が入っていますけれども、どこの場所にどのくらいの総合支所を建てる計画なのか教えていただきたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 安塚藤岡地域づくり推進課長。

○藤岡地域づくり推進課長（安塚欣也君） お答え申し上げます。

今の段階ですと、どこの場所とか、面積等も含めまして、これから基本計画策定で決めていきたいというふうに考えております。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 今、都賀町のほうでは総合支所をやっていますけれども、これからの時代の中で人口減少が非常に止まらないう。そういうのを見越しながら、藤岡の人口に対する建物の大きさとか、また現在残っている市の建物が相当あると思うのです。そういうのを利用するとか、いろんな計画があると思うのです。そういうのをしっかりとした方向性を出しながら計画していただきたいと思うのですけれども、新築ばかりを考えるのではなくて、あるものを利用して改修して使っていくとか、いろいろ計画の中であると思うのですけれども、その辺の考えはどうなのでしょう。

○分科会長（小平啓佑君） 安塚藤岡地域づくり推進課長。

○藤岡地域づくり推進課長（安塚欣也君） その辺は、今ある建物を利用してというお話なのですが、その辺も含めまして今後検討していきたい。今は、地域の皆様にアンケート調査を実施しておりまして、無作為で800人の方に対してアンケート調査を実施しています。その回答も踏まえながら検討していきたいというふうに思っております。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） そのうちその計画が決まるのでしょうかけれども、今までの役場とか、そうい

う建物なんかも必要なくなりますよね。そういう先のことも、そういう処分も、解体したり、その土地を売却したり、いろいろあると思うのです。そういうことも計画の中で入れていかないと、今まで建てると、その後がそのまま残されて、管理費はあまりかからなくなるのでしょうか、やっぱりその先まで考えていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 安塚藤岡地域づくり推進課長。

○藤岡地域づくり推進課長（安塚欣也君） お答え申し上げます。

その辺も含めまして検討していければというふうに思っております。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 155ページの火の見櫓解体撤去事業費についてなのですが、この火の見櫓解体撤去事業費は、令和4年から解体事業をやるというふうに議員研究会で何か聞いた記憶があるのですが、そのときに27基を解体していくということで、去年は1基で300万円出ているのですが、この火の見やぐらというのはうちの近所にもあるのですが、あの1基を解体するのに300万円というのは、その300万円はすごく高額だと思うのですが、何を入れた300万円なのか、ちょっと教えていただきたいなと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 鈴木地域政策課長。

○地域政策課長（鈴木邦彦君） お答え申し上げます。

火の見やぐら解体のスケジュールを立案した際に、各地域の火の見やぐら一基一基を建築士の資格を持つ職員が調査をいたしまして、それに基づきまして、建て壊した場合の設計額を1基当たり全て算出をしていただいて、なおかつその状態も含めて調査を行って解体のスケジュールを組んだということになっております。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 今年は2基というふうに出ているのですが、去年よりも予定額が安くなっているというのは、すみません、火の見やぐらって、みんな同じではないのですね。ちょっとその確認を。

○分科会長（小平啓佑君） 鈴木地域政策課長。

○地域政策課長（鈴木邦彦君） やはり各地域でも、同じ地域でも全く大きさとか材質が違ったりというふうには聞いております。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） すみません。令和4年のときが27基だったのですが、今まで3基を壊すとすると24基になりますよね。24基で今後の予定のスケジュールというのは、計画どおりになっているのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 鈴木地域政策課長。

○地域政策課長（鈴木邦彦君） お答え申し上げます。

当初のスケジュールでは、令和10年度までに解体を完了ということでしたが、やはりこういう財政状況で、なかなか予算の確保が難しいということと、実際に地域に改めて入ると、いや、うちは残してほしいというようなご意見もあるものですから、その辺丁寧にご意見をお伺いしながらスケジュールをこなしていくというふうに進めておりますので、当初の予定よりも若干後ろ倒しにはなってしまうかなというふうには考えております。

○分科会長（小平啓佑君） 小久保委員。

○委員（小久保かおる君） 丁寧にやったださるというふうにお聞きして安心したのですが、あと10年後というと、今までの27基がもっと増える可能性が高いと考えるのですが、壊さなくてはいけないのが。うちの近所の2基は該当地域に入っていないのですが、まだ大丈夫みたいですね、該当地域に入っていないですからとはお答えしているのですが、この27基の最初の予定したところが増えるということも考えられると思うのですが、いかがでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 鈴木地域政策課長。

○地域政策課長（鈴木邦彦君） そうですね。今、当初の建てた計画で、まず令和10年を目標に進めておりまして、その後、また地域のご要望を聞きながら、撤去する基については改めてスケジュールに組み入れるとか、全体のスケジュールを組み直すとかという形で対応していく以外にないかなというふうには考えております。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 335ページ、伝統的建造物群保存事業費なのですが、研究会でいろいろ説明をいただいたのですが、まだ私にもはっきり分からない点があるのですが、今年度、令和7年度は中庭の整備と煙突関係をどうするかという案なのですが、ある程度の今年度の予算出ているので、どのような計画で、どのようにしたいのか教えていただきたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長。

○蔵の街課長（加茂浩史君） お答えいたします。

予算書の伝建地区拠点施設整備事業費37万6,000円のところかと思うのですが、研究会のほうでもお話をしましたとおり、広場整備と煙突等の整備につきましては見送ってございますので、来年度は実施いたしません。都市再生整備計画に盛り込んだことによって、令和7年度に広場と煙突を実施しようと思っていましたけれども、それは令和7年度には実施せず、1年先送りとさせていただいております。研究会でもお話ししましたが、再検討をしたいというふうに思っています。それは、先ほど補正予算のほうでご承認いただきました、うちのほうの繰越しの予算で来年度、例えば設備であったり整備手法であったりということを再検討して、減額を見据えて再検討して、来年度は再検討に時間を置いて実施したいというふうに思っております。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） ということは、令和7年度はいろいろな計画をして、来年度に向けての予算づけをしていくということなののでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長。

○蔵の街課長（加茂浩史君） 令和7年度におきましては、再検討をした上で事業費等の精査をして、翌年度の整備に向けて検討してまいりたいというふうに考えております。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 来年度に予算をつけていくと。ある程度の計画が決まったら、総務常任委員会や研究会でいろいろ説明をいただきたいと。委員の皆さんもいろいろ意見があるのでしょうかけれども、職員さん、意見を聞いたりいろいろ大変なののでしょうかけれども、ある程度来年度の予算が決まる前にすり合わせをしていただければと思うのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長。

○蔵の街課長（加茂浩史君） お答えいたします。

今年度につきましても2回の総務常任委員会、研究会で説明をさせていただいております。新年度以降についても要請があれば、研究会などでの説明であったり、情報提供の対応をさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一つ、企業からこのみそ蔵の改修に対しての見積り参加をしたいので行ったら、もう決まっていますよと言われましたと。公平公正な見積り、業者を設定するのに当たり、どのように入札参加業者を決めているのか教えていただきたいと思ひます。

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長。

○蔵の街課長（加茂浩史君） 申し訳ありません。その見積りの参加の事業というのは何か……

○委員（松本喜一君） 今まで改修した、建設業者が改修した、見積りを参加したいという業者もいたのですけれども、行った途端にもう決まっているから参加できませんと言われたみたいなのですが、その辺はどのような入札参加をさせているのか教えていただきたい。

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長、大丈夫ですか。

○蔵の街課長（加茂浩史君） ちょっと確認させていただいてよろしいですか。後ほどお答えさせていただきます。すみません。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） 加茂蔵の街課長。

○蔵の街課長（加茂浩史君） 今後の見積りに関しては、今後行う事業に対しての見積りを徴する業者というのはまだ決まっておりませんので、その辺りは今後公平に徴していければなというふうに考えております。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 私も建築屋で、私がどうのこうのではなくて、建築業組合で、そういう役員会の中で話が出てきたのです。公平に入札参加をさせてくださいと。実は昔、おたすけ蔵美術館を、ある業者が決まっていたのですけれども、最終的には栃木市の建築業組合組織が請け負って、おたすけ蔵は全部昔流に造り直したのです。そういう経過があるのですけれども、どうしてもなかなか参加ができないということで、ある程度公平公正な入札参加をよろしくお願いしたいと思います。以上です。

○分科会長（小平啓佑君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ないようですので、地域振興部所管の質疑を終了いたします。

議事の終了した執行部の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

執行部の入替えを行いますので、少々お待ちください。

〔執行部退席〕

○分科会長（小平啓佑君） 次に、消防本部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の消防本部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） お世話になります。299ページの防火衣一式更新事業費の538万4,000円であります。改めて耐用年数というのを伺いたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 小川消防総務課長。

○消防総務課長（小川信幸君） お答えさせていただきます。

防火衣の耐用年数、おおむね8年とメーカーのほうから聞いておりますので、それで対応しております。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） そうしますと、多分前年度もたしかあったような気がするのですけれども、ちょっと記憶は薄いのですが、多分40着か何かはもうその前に更新されているのかなと思うのですが、いかがなのですか。

○分科会長（小平啓佑君） 小川消防総務課長。

○消防総務課長（小川信幸君） 前年度は40着ではなく24着でございます。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） これはどのぐらいの量まで、全員の分をそろえて、そうすると、また今度リターンで8年の耐用年数ですね。となると、あと何着ぐらい更新するわけですか。

○分科会長（小平啓佑君） 小川消防総務課長。

○消防総務課長（小川信幸君） 耐用年数が8年でございますので、また現場に行っていない事務方の職員もでございますので、現場を8年間勤務している者を中心として交代をしております。

〔「どれくらい回すの」と呼ぶ者あり〕

○消防総務課長（小川信幸君） それはもう8年で耐用年数が過ぎてしまいますので、古いものを破棄しまして、新しいものを交換していくという形です。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 常に更新はしているのでしょうけれども、基本的に年度年度で防火着もよくなっているというか、多分素材がよくなっていると思うのですけれども、そういう観点からすると、古いほうが逆に8年たってしまっているとか7年たっているとなりますけれども、あと何着ぐらいを見込みでというか、そうすると大体8年分がそろえるのかなという質問でよろしいですか。

○分科会長（小平啓佑君） 上岡消防長。

○消防長（上岡健司君） 防火衣につきましては、職員数が主に200人前後であります。先ほど課長が申し上げましたとおり、毎年25着前後をめどに更新をしておりますので、単純に言えばそのサイクルが8年ごとにほぼ回ってくるということと、あとは特に救助隊とか、そういった現場で激しく消耗する防火衣もでございますので、その辺の部分につきましては、8年を待たずに更新する、そういったケースもございます。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

松本委員。

○委員（松本喜一君） 301ページ、消防団員のことなのですからけれども、非常に消防団員の成り手が少ないということで、今の現在で予定人数より何人少ないのか。来年度に向けて何人ぐらい補充していくのか、お聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） 荒川消防総務課主幹。

○消防総務課主幹（荒川浩明君） お答えさせていただきます。

現在、来年度に向けては各分団長から上がってくる上申をもって集計中ですので、令和6年4月1日の数値をちょっと発表させていただきます。条例定数が1,009名で、令和6年4月1日で実員が944名、充足率としまして93.6%、去年4月の数字になりますが、以上になります。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 少ない分、令和7年度の応募数というか、その要望は増やしていただけるよ

うに仕向けているのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 荒川消防総務課主幹。

○消防総務課主幹（荒川浩明君） お答えします。

先ほど言ったとおり、令和7年度の新規採用団員は、現在集計中ですが、現在の段階でやはり944名を若干下回ってしまうかなというところで現在集計している作業になります。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 増やすための方策というか、そういうのはどういう考えがあるのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 荒川消防総務課主幹。

○消防総務課主幹（荒川浩明君） やはり広報活動でホームページを使ったり、「火伏」という広報紙をつくってみたり、また特に最近では、将来の担い手であります小中高校等に要望があるとき、または県と協力して、消防団員を協力の下派遣し、消防放水体験などをさせて、将来に向けた取組にも力を入れているところでございます。

以上になります。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 大宮地区は、各自治会で何名と決めて自治会から選出して出しているのです。

ある程度の人数は確保しているのかなと思っているのですけれども、ある程度そういう自治会とかいろんな方面からご協力をいただきながら人数確保をしていただきたいと思うのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 荒川消防総務課主幹。

○消防総務課主幹（荒川浩明君） お答えします。

実情、先ほど委員がおっしゃったとおり、自治会からの選出、または現職団員が知人、友人を誘って入団に向けてくれているというところが非常に大きく影響しています。その辺の話は現職である団員の方たちにもより一層お願いして、これからも人員増に進めていきたいと思っています。その辺が団員入団の大きな要素になっているところでございます。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） これ前にも要望でちょっと言ったのですけれども、本署の職員が定年退職したときに、その後、消防団員に逆に入っていただければ、何でも知っている消防署の職員ですから、非常に効率がいいのかなと思うのだけれども、そういうのはなかなか難しいのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 上岡消防長。

○消防長（上岡健司君） 消防職員は様々な経験をしていますので、地域に入ってそういう活動ができればよろしいのかというのは私も同感でありますけれども、これには考え方、個人差がございます。しかもこれから定年65歳になっていきます。その後の生活の仕方といいますか、本人の人生に関わってくると思いますので、40年近く緊急事態に備えて、精神的にもすり減っている職員もい

るかと思しますので、その後に、定年後になお団員として活動してくれというのは、私としてはちょっと申し上げにくいかなと、そんなふうに考えております。

○分科会長（小平啓佑君） 松本委員。

○委員（松本喜一君） 分かりました。それもそうなのでしょうけれども、ただそういう意見があったということで、もし、いや、俺まだやりたいよというような人がいれば、1人でも2人でも入ってもらえれば、逆に団員の方なんかも、いろいろ教えていただいて非常によくなるのかなと思っているのですけれども、消防長もあまり無理は言えないと思うのですけれども、消防団員を増やすように皆さん、私らも協力しますけれども、よろしく願いしたいと思います。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 305ページで、消防水利施設管理費であります。金額は小さいのですけれども、防火水槽とか防火井戸がありますよね。多分前も経験させてもらったのですけれども、ちょっと今使用になっていないよという、消防関係で取り壊しとかやってもらった経緯があるのですけれども、そういうものというのはまだかなり数があるのでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 中村警防課長。

○警防課長（中村 聡君） 市内に消防指定水利というものがございまして、それは3,000を超える数字であるのですけれども、主に消火栓については新規で設置するものとしては開発行為に伴うものと、あと消防のほうで予算を取りまして、水道課と協議しながらですけれども、年間4件から5件程度設置しております。あと防火水槽につきましては、やはり開発行為に伴いまして設置するのがメインでございまして、これまでに設置されている防火水槽を含めて、消火栓も含めてですけれども、毎月消防職員が点検等を実施しながら維持管理に努めているところです。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 箇所数を改めて聞いたのですけれども、逆に言うと76万4,000円では少ないのではないかなというふうに思うのですけれども。特に防火水槽は、結構ボックスで水がたまっているのですけれども、井戸となると結構落ちてしまってどうのこうのというのも、たまらないとか、そういうのも話聞いているので、その辺はどうなのかなというふうに思ったのです。

○分科会長（小平啓佑君） 中村警防課長。

○警防課長（中村 聡君） すみません。ちょっと正確な数を今確認しましたので申し上げますと、今委員がおっしゃいました井戸につきましては、市内全域で363か所、消火栓につきましては3,154か所ございます。防火水槽につきましては、40トンを超える大きなものとして446か所、20トンを超えるものとして759か所、20トン未満のものとして96か所、それから各小学校等にございますプール関係が43か所、合わせて4,861か所ございます。特に防火井戸につきましては、本来各ご家庭用であったり生活用で使っていた防火井戸が多くございまして、そういったものにつきましては、現

状維持で利用できるものを、いざというときには使用させていただくものです。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ないようですので、消防本部所管の質疑を終了いたします。

議事の終了した執行部の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

入替えを行いますので、少しお待ちください。

〔執行部退席〕

○分科会長（小平啓佑君） 次に、会計管理者、議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の会計、議会、選管、監査を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 185ページで選挙啓発費であります。毎年毎年ずっとこのような数字なのですけれども、言葉ではそういう選挙に行ってもらおうとか、主権者教育でもいろいろやっているのですけれども、変な話、ゼロが1つ多くてもいいのではないかなというふうに思っているのです、そういう意味では。効果がなかなか現れないのではないかな。もうちょっと自分の意見を述べてしまいますけれども、ここで大分世の中変わってくると思うので、もっともっとやっぱり投票とか、選ぶのだということに、別に景品とか記念品でつるわけではありませんが、予算はもっとつけたほうが良いような気がします、いかがですか。

○分科会長（小平啓佑君） 佐藤選挙管理委員会事務局次長。

○選挙管理委員会事務局次長（佐藤啓子君） お答えいたします。

おっしゃるように、予算を豊富につけていただければありがたいなと思います。ただ、私どもも選挙啓発運動ということで、出前講座やポスター教室、ポスターコンクールあるいはあしたから始まりますポスター展など、お金のかからないような形で啓発活動をしております。ただ、すぐに投票率に、ではそれがすぐにでも結びつくのかというと、やはり小さい小学生から少しずつ主権者教育ということで、こつこつ時間をかけて上げていく。これが一番最善な、長いようかもしれませんが、一番最善の策ではないのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 反論するわけではないですけれども、年々投票率が下がっているのです。そこがやっぱり何か変えなければいけないのではないのかなと我々も考えています。いろん

なことをやらせてもらっているのですが、受けるほうの考え方もあるのでしょうかけれども、さっきもちょっと変な意味で景品でつるとかと、そういう意味ではちょっと悪いのですけれども、何かちょっと変えてもいいのではないのかなと。何かもっと奇抜なことで、例えば今はもうパソコンとかSNSで発信とかもありますので、そんなことがもし、選管だから難しいところはあるかもしれませんが、そういうのできるのであれば、そういうPR活動もいいのではないのかなと思うのですけれども、どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 佐藤選挙管理委員会事務局次長。

○選挙管理委員会事務局次長（佐藤啓子君） いろんなご意見ありがとうございます。昨日も県の選挙管理委員会の打合せ、事務打合せ等がありまして、県のほうの考え方としても、ネットは確かに有効ではある。しかし、それを見ていく、自分で検索していく人たちは投票に行く人たちだよねというような考え方もあるって、むしろ今は効果的にテレビ、見ていても自然に流れていくようなテレビが有効だみたいな話も昨日ありました。いろんな考え方、方法はありますが、できるだけ投票率向上に向けては検討していく必要があると思っております。

以上です。

○分科会長（小平啓佑君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 確かに子供たちが今何で遊んでいるのかというと、スマホ、その次テレビなのですね。そのとおりなので、やってみなくては分からないのではないのかと自分は思っています。せっかく県がそこまで言っていて、ただちょっと足踏みであれば、ではやりましょうよと。PR活動、今度テレビで流しましょうとか、そういうことはやっぱり一歩踏み出してもらいたいと。その分なら議会は予算をアップするのは賛成しますので、みんなに言いますから、よろしくお願いします。どうでしょうか。

○分科会長（小平啓佑君） 佐藤選挙管理委員会事務局次長。

○選挙管理委員会事務局次長（佐藤啓子君） ありがとうございます。媒体として私どものほうでテレビとかではなく、それは国とか県とかでお願いすることがあったとして、例えば市長、市議選のときにケーブルテレビにできるかどうかというのは、またちょっと予算のこととか、いろんなタイミングがあるので、これから検討させていただきたいと思います。

以上であります。

○分科会長（小平啓佑君） ほかにございますか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（小平啓佑君） ないようですので、会計管理者、議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局所管の質疑を終了いたします。

◎閉会の宣告

○分科会長（小平啓佑君） 以上で当分科会の審査は終了いたしました。

なお、分科会長報告の作成については、正副分科会長にご一任願います。

また、繰り返しになりますが、3月21日金曜日午前10時から、予算特別委員会全体会において分科会長報告、質疑、討論、表決を行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして予算特別委員会総務分科会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

（午後 2時03分）